

「国立大学の法人化がもたらしたもの —国立の女子大学としてのお茶の水女子大学に おける取り組み—」

日時

2022 年 2 月 26 日 (土)

14:00~16:00

(13:45 より入室可)

会場

Zoom によるオンライン開催 (参加費 無料)



講師：室伏きみ子さん 前お茶の水女子大学学長

<プロフィール>

1947 年浦和市 (現・さいたま市) 生まれ。お茶の水女子大学理学部卒業、同大学院修士課程及び東京大学大学院博士課程修了 (医学博士)。お茶の水女子大学教授、理学部長、理事・副学長を経て、学長 (2015~21 年)。Strasbourg 大学客員教授・名誉博士、日本学術会議会員、日本医療研究開発機構監事、各種審議会委員等を歴任。専門は細胞生物学、生命科学、科学教育。

著書に、『ストレスの生物学』(オーム社 2005)、『図解生命科学』(同 2009)、『人類遺伝学用語事典』(監修、同 2008)、『サイエンスカフェ によろこ! 1~5』(富山房インターナショナル 2009~14)、『こぐま園のブッチー』(同 2006) などがある。

【セミナー内容】

国の財政が年々厳しくなる中で、「国立大学も合理化の対象とすべき」との議論の結果、2004 年に、行政改革の一環として 99 の国立大学が文部科学省から独立して 86 の「国立大学法人」となりました。民営化も視野に入れた議論でしたが、最終的に国立大学の教職員を非公務員にして国の予算を削減する「国立大学法人化」が実施されることになりました。民営化は免れたものの、国からの運営費交付金が毎年約 1~1.3% (110 億円以上) 削減されることになり、これは、予算的には国立大学が毎年一つずつ減っていく計算になります。地方の国立大学や、お茶の水のような小さな大学にとって、この影響はとても厳しいものでした。

法人化は、その後、国立大学における教育・研究の在り方や、非常勤講師をはじめとする雇用の在り方などにおいても多くの課題を生み出しており、予想もしなかったコロナ禍に直面して、それ等の課題が顕在化して来ています。男女共同参画の視点からも解決すべき課題は山積しています。本セミナーでは、お茶の水女子大学での取組を通じて、それ等の課題について考えてみたいと思います。

お申し込み方法

以下のフォームから
事前にお申し込みください。

2月22日 (火) まで

<https://forms.gle/FKx8wLEQ1rjVsGdC9>

開催日前日までに、Zoom 参加者用 URL をお送りします。
ご質問等がありましたら、下記にお問い合わせください。

セミナー事務局 max-step@mrf.biglobe.ne.jp



お申し込み QR コード

主催：国際婦人年連絡会

<https://iwylg-jp.com/> Eメール：iwylg-i@nifty.com